



TOHOKU  
UNIVERSITY

# Regional Innovation Research Center

Graduate School of Economics and Management  
Tohoku University  
2009

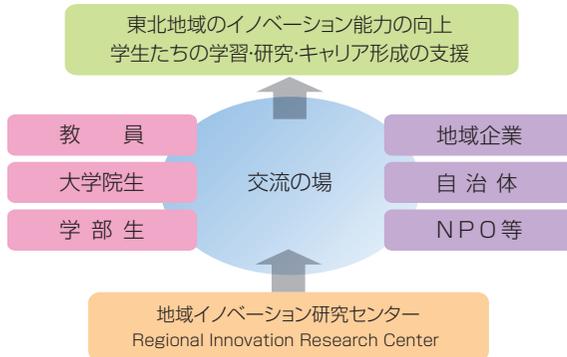
東北大学大学院経済学研究科 地域イノベーション研究センター

# センター概要 設立目的・事業・運営体制

## 設立目的

地域イノベーション研究センター（以下、センター）は、経済学研究科内外の知的能力を組織的に結集して教育研究活動を行うことによって、東北地域のイノベーション能力の向上を図り、東北地域の産業振興と経済発展に貢献するために必要な諸事業の企画、実施および調整を行うことを目的とします。

また、センターは本学および地域の学生たちに地域の企業、自治体、NPO等の実務家たちと交流する場を提供することによって、東北地域の現実について強い関心と理解をもち地域発展への貢献意欲と能力をもつ人材を育成します。



## 事業内容

センターは以下のような基本事業を実施します。

- ▶ 地域イノベーションに関する研究の推進
- ▶ 地域イノベーションに関する教育の推進
- ▶ 地域イノベーションを牽引する指導者の人材（地域プロデューサー）の育成
- ▶ 地域イノベーションに関する情報交流の推進
- ▶ 委託研究、寄附講座、共同研究の受入

## 東北地域の地域力の向上をプロデュースする

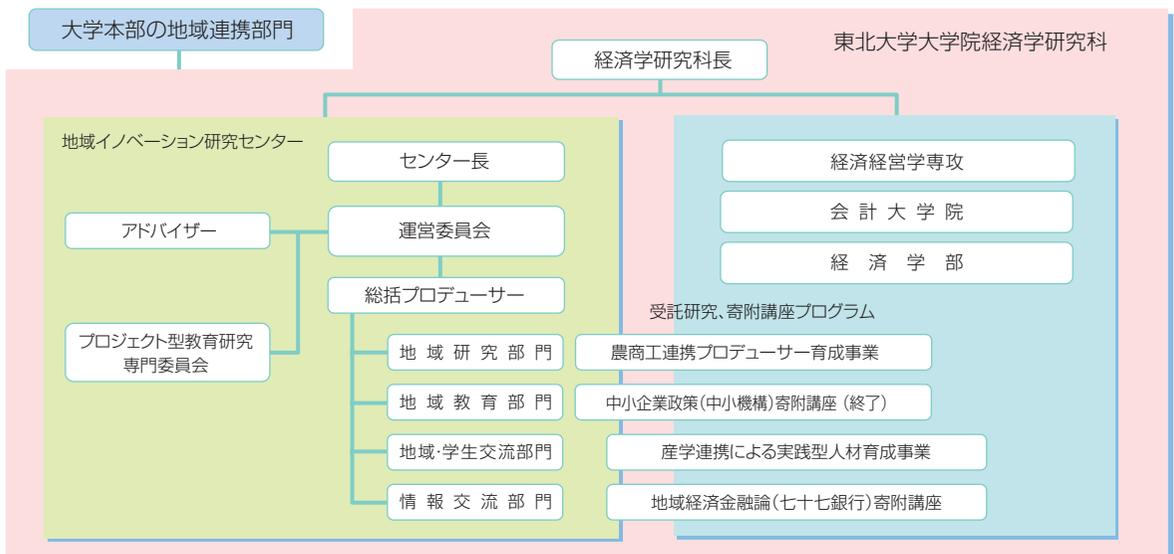


センター長

大滝 精一 経済学研究科教授

急激な人口減少のもとで、いかに東北地域の活力を向上させ、持続可能な成長を図っていくのが大きな課題となっております。地域イノベーション研究センターの使命は、こうした東北地域の課題に応え、イノベーションの実現を通して地域力の持続的向上を推進していくことにあります。地域イノベーションは大学だけの力では実現できません。東北地域に関わりをもつ企業、政府、自治体、非営利組織、それに他の大学や研究教育機関が、地域イノベーションの実現に向けて共通の目的を設定し、互いの個性を生かしつつ協力し合うことが不可欠です。当センターは、これまでの成果と経験を基盤として、東北地域活性化のプロデューサーとしての役割を果たしていきたいと考えております。

## 運営体制



# 地域研究プログラム シンポジウム等の開催、地域企業調査

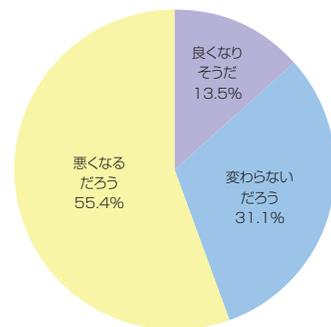
## シンポジウム・フォーラムの開催

地域の中小企業経営および経済・産業に関するシンポジウムとフォーラムを開催することによって、地域の重要課題を焦点化し、課題解決に向けての議論と学習の場を提供しています。2008年度からは「農商工連携プロデューサー育成事業」を推進するためのセミナーを開催しています。

- センター設立記念国際シンポジウム  
東北アジアの産業クラスター  
2005.09 仙台国際センター
- 第1回フォーラム  
若者に選ばれる地域企業の条件：地域企業の人材獲得と育成  
2006.03 ホテル仙台プラザ
- 第2回フォーラム  
中小企業のイノベーションを起こす情報化への新たな挑戦  
2006.11 仙台市戦災復興記念館
- 第2回シンポジウム  
東北地域の経済産業の問題点を探る  
2007.09 仙台国際センター
- 第3回シンポジウム  
地域ブランドの作り方  
2008.03 仙台国際センター
- 地域イノベーション・シンポジウム  
ものづくりだけで生き残れるか？ ―製造業のサービス化―  
2008.10 仙台国際センター
- 第1回 農商工連携をリードする経営人財育成セミナー  
地域企業・事業者が飛躍するために経営者は何をすべきか  
2009.01 せんだいメディアテーク
- 第2回 農商工連携をリードする経営人財育成セミナー  
自社と地域の利益モデルを構築する経営者をいかに育成するか  
2009.03 せんだいメディアテーク



3ヶ月後の経営状況の予測  
(2008年下半期調査)



## 地域中小企業景況調査

宮城県中小企業家同友会が会員企業を対象に行うアンケート調査に協力しています。年2回、会員企業の現在の経営状況および3ヶ月後の経営状況の予測について調査を行い、報告書を作成します。また、毎回の調査では、時期に合う特別テーマが設定され、地域中小企業の取り組みの現状と課題についても調査が行われます。

経営者として向上させたい能力（複数回答）



## これまでの特別テーマ

- 2005年上半期 会社の経営で問題となっていること
- 2005年下半期 会社の経営上の主要な取り組みの状況
- 2006年上半期 経営者として向上させたい能力
- 2006年下半期 障害者雇用
- 2007年上半期 後継者問題
- 2007年下半期 経営指針の作成および運営
- 2008年上半期 原油・石油製品価格上昇の影響
- 2008年下半期 昨今の経済情勢の自社への影響

# 地域研究プログラム プロジェクト型教育研究

## プログラムの概要

プロジェクト型教育研究プログラムは、地域研究部門の重要事業として地域課題に関する研究を促進し、それを通じて特定の地域課題の解決に貢献することを目的として実施されます。そのために、特定の地域課題を中心にしたプロジェクトが編成され、本研究科の教員（プロジェクト・リーダー）と大学院生および地域の実務家たちが共同で調査研究を行い、課題解決に取り組みます。

また、大学院生たちにプロジェクト経験、実務家たちとの交流および調査研究の機会を提供することによって研究者としての能力向上とキャリア形成を支援します。

## 実施プロジェクト

### NPO 人材マネジメント・プロジェクト (2007 年度～)

プロジェクト・リーダー：西出優子准教授、高浦康有准教授

1995 年の阪神・淡路大震災を契機に、社会的使命の実現を目指して活動する NPO の役割が大きくなっています。NPO が活動を継続しサービスの質を担保するためには、ボランティアを含めた人材育成やリクルート等の人材マネジメントが求められます。本プロジェクトでは、東北地域の NPO を対象に、人材マネジメントの現状と課題に関する実態調査を行います。これにより、NPO におけるボランティアやスタッフのマネジメントおよびそれを支える社会や組織のあり方について具体的な方策を探り、課題解決に向けた提案を行います。

### 宮城県食品産業振興プロジェクト (2008 年度～)

プロジェクト・リーダー：澁谷寛准教授、福岡路准教授

本プロジェクトは、宮城県食品工業協議会と共同で、宮城県の食品産業の特徴と問題点を抽出し、いくつかの問題点に対する解決策および新しい戦略的可能性を提示することを目的とします。現在、既存の調査研究のレビューから、流通における付加価値、ブランド化、観光とのコラボレーションという 3 つの事項を選定し、問題解決および戦略的可能性の実現に向けての具体的な調査研究を行っています。

### 終了プロジェクト

### 仙台印刷工業団地クラスター革新プロジェクト

(2006 ~ 2008 年度)

プロジェクト・リーダー：大滝精一教授

仙台印刷団地は印刷業界初の中小企業共同化事業体として 1963 年に発足して以来、様々な共同事業を行ってきました。しかし、最近 IT 社会の到来など印刷産業を取り巻く環境の激変に伴い、印刷団地も自発的にイノベーションを起こしていく必要性に迫られています。本プロジェクトでは、新しい印刷団地構想に向けてのビジネス・デザイン・センターの設立や新しいソリューション・ビジネス・モデルの創出などの対応策について調査研究を行いました。

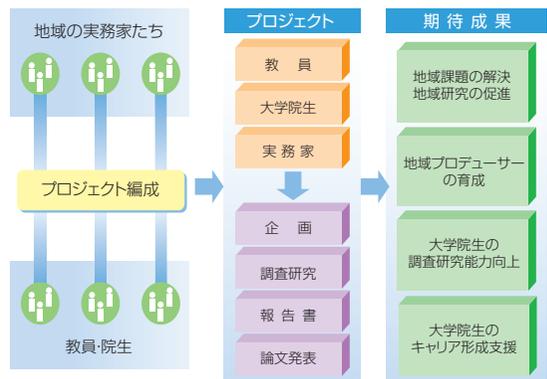
### 終了プロジェクト

### 地域経営人材育成プロジェクト (2006 ~ 2008 年度)

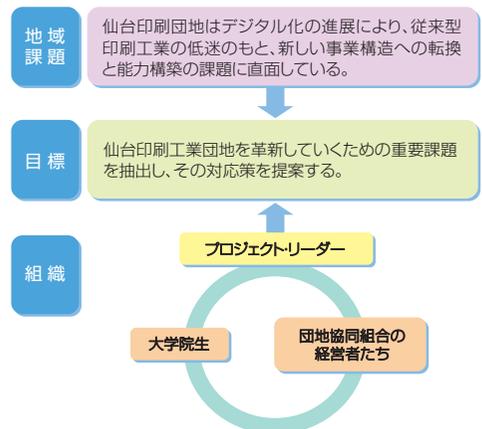
プロジェクト・リーダー：藤本雅彦教授

東北地域を代表する企業の経営者を対象として多くのヒアリング調査を行うことによって経営者のキャリアと学習の実態を明らかにし、その研究成果を人材育成学会で報告しました。引き続き、この調査研究から見つかった地域経営人材育成上の課題に対応するために、センターの新しい地域経営者教育事業として「地域経営者のための実践ケース学習プログラム」を構想し、実施に向けて準備を進めています。

## プロジェクト型教育研究プログラムの概要



## 仙台印刷工業団地クラスター革新プロジェクトの概要



仙台市のクリエイティブ・クラスター構想と共同で事例調査報告会を開催 (2008.8 せんだいメディアテーク)

# 地域教育プログラム 公開講座

## 公開講座「イノベーション・カレッジ」

財団法人東北産業活性化センターと連携して、東北の各県を巡回しながら、中小企業経営および地域活性化に関する無料公開講座「イノベーション・カレッジ」を開催しています。



イノベーション・カレッジ 2008 仙台会場

## 公開講座

### 「東北地域の中小企業経営と地域活性化」

独立行政法人中小企業基盤整備機構東北支部と連携して、学部学生と中小企業関係者などの一般市民を対象に公開講座を開催しています。講師は、東北地域の優良中小企業の経営者、東北経済産業局、自治体等の実務担当者が務めます。現場感あふれる事例を通じて、中小企業経営の特徴・課題・ダイナミズムについて講義し、中小企業支援施策、産学官連携および地域活性化の現状と重要課題に対する関心と理解を高め、地域発展への貢献意欲をもつ人材の育成を図ります。本講座を「継続聴講」した一般市民の方には修了証が交付されます。

#### 2008年度の主要な講義内容

- 東北経済の動向と中堅・中小企業の役割
- 中小企業経営者の役割と使命
- ベンチャー企業の特徴と経営者
- ベンチャー起業の実際
- 中小製造業経営の実際
- 中小飲食業経営の実際
- 中小企業再生の実際
- 産学官連携による新事業創出
- 新連携による新事業創出
- 青森市の新しい街づくり支援
- 地域資源活用による伝統工芸の活性化
- パネル・ディスカッション

## みやぎ県民大学開放講座

宮城県の委託事業として、地域中小企業のイノベーション能力の向上を図るための開放講座を開講し、多くの受講者から高い評価を受けました。

2006年度 地域企業イノベーションの切り口 (70名受講)

2007年度 地域企業の飛躍を考える40の質問 (118名受講)

#### 2008年度開催実績

宮城県 2008.9.6～9.7

仙台国際センター、127名受講

青森県 2008.9.20～9.21

青森県観光物産館アスパム、72名受講

山形県 2008.9.27～9.28

山形ビッグウイング、79名受講

#### 2008年度の講義内容および講師

- 次世代経営人材の育成 (藤本雅彦教授)
- 資源の発掘と経営戦略 (福嶋路准教授)
- リスク・マネジメント (伊東俊彦教授)
- インターネット上の口コミとマーケティング (澁谷寛准教授)
- オンリーワン企業を創る (大滝精一教授)

#### 今後の開催予定

2009年度 宮城県、秋田県、福島県

2010年度 宮城県、新潟県、岩手県



自社の経営について講義する  
アイリスオーヤマ株式会社の大山健太郎社長



最終回のパネル・ディスカッション

桜井武寛氏 (株式会社ノノ蔵 代表取締役会長)

仁賀建夫氏 (経済産業省地域経済産業G地域技術課長)

山下敬史氏 (中小企業基盤整備機構東北支部長)

大滝精一教授 (地域イノベーション研究センター長)

# 地域・学生交流プログラム プロデューサー塾

## 概要

地域社会の各分野でイノベーション活動に取り組んでいる優れた地域プロデューサーの方を囲んで、問題意識、課題への取り組み、考え方や生き方について学生たちとざっくばらんに語り合う場です。経済学部の学生たちの企画と運営によって実施されています。

※ 2007年度までは「イブニング・トーク」として開催されました。

### イブニング・トークの開催（～2007年度）

#### 2005年度

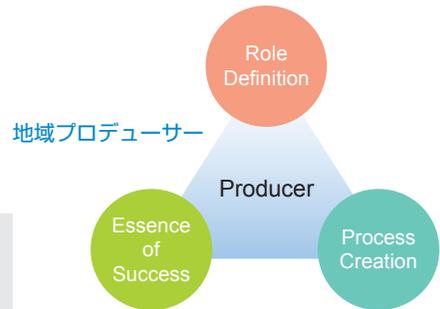
- 第1回 人間力（三條毅氏）
- 第2回 仙台を学生の多いまちから学生のまちへ（渡辺一馬氏）
- 第3回 存在証明と所属証明（山崎賢治氏）

#### 2006年度

- 第4回 東北におけるベンチャー企業育成の必要性（熊谷巧氏）
- 第5回 私が大企業を見限ったわけ（小泉光氏）
- 第6回 ライフスタイルをプロデュース（一ノ宮嘉道氏）
- 第7回 六本木ヒルズを捨てた男（小泉彌和氏）
- 第8回 田中康夫とガチンコ勝負をした男の今（佐藤崇弘氏）
- 第9回 食材王国みやぎ・よもやま話（三輪宏子氏）

#### 2007年度

- 第10回 生きているってなんだ。学校出たら何が生きがいだ（高橋四郎氏）
- 第11回 スローフード運動の展開（若生裕俊氏）
- 第12回 広報の仕事～マーケティングから危機管理まで（萩原誠氏）
- 第13回 起業して、よかったこと（五十嵐実氏）
- 第14回 おらほのプロジェクトX（岸田勝人氏）
- 第15回 農村における社会起業家（加藤孝志・重子氏）



地域の新しい共生関係を構想・提案し、その実現を自分の役割として定義し、目的達成のための成功の本質を把握し、強い意志をもってその目的を達成するまでのプロセスを創造していく者またはその役割



## 2008年度開催のプロデューサー塾

	<p>テーマ 好きな道で志を極め、社会を豊かにする生き方</p> <p>講師 石井 力重氏 株式会社デュナミス NEDO フェロー</p> <p>企画 経済学部 福嶋ゼミナール 2008.5</p>	人それぞれ、自分の好きな道というものは異なるが、一つ共通して言えることは、自分が目指す道に対して強い意志、使命、そして志が持てるかどうかということである。
	<p>テーマ はじまりは、JAZZ。</p> <p>講師 佐々木 和夫氏 定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員長</p> <p>企画 経済学部 権ゼミナール 2008.6</p>	音楽に関しては素人。フェスティバル開催時に街を通りかかったのがきっかけで実行委員会に参加した。自分たちが楽しむには、どういう街であればいいのかと考えるようになった。
	<p>テーマ I am マチツクラー</p> <p>講師 足立 千佳子氏 NPO 法人まちづくり政策フォーラム 理事</p> <p>企画 経済学部 西出ゼミナール 2008.7</p>	地域の魅力を発見し、まちづくりを進めていくには、地域の現状を把握し、住民同士でアイデアを出し合い、マイナスイメージをプラスに変換していくことが重要である。
	<p>テーマ T.E.A.M: チームワークの真の意味</p> <p>講師 マーティ・キーナート氏 東北楽天ゴールデンイーグルス 社長補佐</p> <p>企画 経済学部 経済学部ゼミナール協議会 2008.10</p>	<p>T: Togetherness / 「一緒に引っ張る」</p> <p>E: Esteem / 「尊敬」 Enthusiasm / 「情熱」</p> <p>A: Attitude / 「心構え」</p> <p>M: Mental toughness / 「強い精神力」</p>
	<p>テーマ ベガルタ仙台的地域戦略</p> <p>講師 安孫子 博氏 ベガルタ仙台 代表取締役専務</p> <p>企画 経済学部 大滝ゼミナール 2008.11</p>	ベガルタ仙台は「するスポーツ」「見るスポーツ」「支えるスポーツ」のそれぞれに対応した地域交流活動をしている。「支えるスポーツ」にこそベガルタ仙台の人気の源泉があるのではないかと。
	<p>テーマ インターネットを活用したエリアコミュニティの形成</p> <p>講師 後藤 匡氏 マイスペース株式会社 エグゼクティブプロデューサー</p> <p>企画 地域イノベーション研究センター 2009.1</p>	流すインターネットから創るインターネットへ。新たな才能、面白さ、楽しさが次々と生まれる「創造の場」。既にその地域に「ある & いる」ヒト、モノ、コトを活かして地域を活性化していきたい。

# 地域・学生交流プログラム インターンシップ、その他

## インターンシップ・プログラム

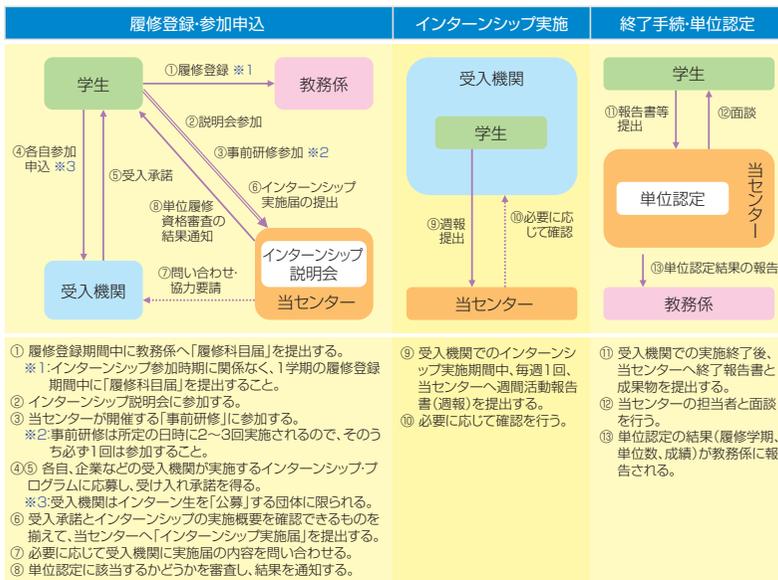
インターンシップ・プログラムは、在学中に企業、公的機関、NPOなどの実社会で就業体験をする機会を提供することによって、学習方法の多様化を図り、学生たちの能力向上とキャリア形成を支援することを目的とします。学部生および大学院生は所定の手続きを行ってインターンシップに参加することによって単位を履修することができます。

学生区分	科目名	単位数
学部2～4年生 大学院生（前期課程） 大学院生（後期課程）	インターンシップ 経済実習Ⅰ 経済実習Ⅱ	2～4単位



インターンシップ事前研修の様子

## インターンシップ（経済実習）の実施プロセス



## インターンシップ事前研修

学生たちが実社会での就業体験をより円滑かつ成果豊かなものにできるように、専門家による事前研修を実施しています。

### ● オリエンテーション

インターンシップの目的と意義を理解し、成果を上げるための重要事項を学習する。

### ● 基本マナーとコミュニケーション

職場での基本マナーをロールプレイング(役割実習)によって習得し、コミュニケーションを円滑に行うための重要事項を学習する。

### ● 課題解決と仕事の進め方

コンセンサス・ゲームや課題解決ゲームなどの実習プログラムを通して、基本的な仕事の進め方(Plan Do Check Action)を習得する。

## 地域の経営者との交流・創業支援セミナー

地域で成長しているベンチャー企業や優れた成果を上げている中小企業の経営者と学生たちとの交流の場を設けます。経営者による講演、学生たちと経営者との交流を通じて、地域企業の可能性と課題を認識してもらったり、学生たちの起業意欲の高揚を図っています。

### 「とうほく学生フォーラム 2008」の開催 2008.5

センターは、チャレンジ・コミュニティ・プロジェクトと共催で、東北地域を活性化しようと活動している学生サークルが一堂に集まる学生フォーラムを開催しました。地域社会と学生との相互交流の輪を拡大させることおよび地域における学生のインターンシップ活動の実施基盤を強化することを目的としました。

**参加サークル:** NPO 法人ドットジェイピー東北支部、4-LEAVES Green Bridge Project、アートスタンダード、東北大学 Masspy、環境サークル RNECS



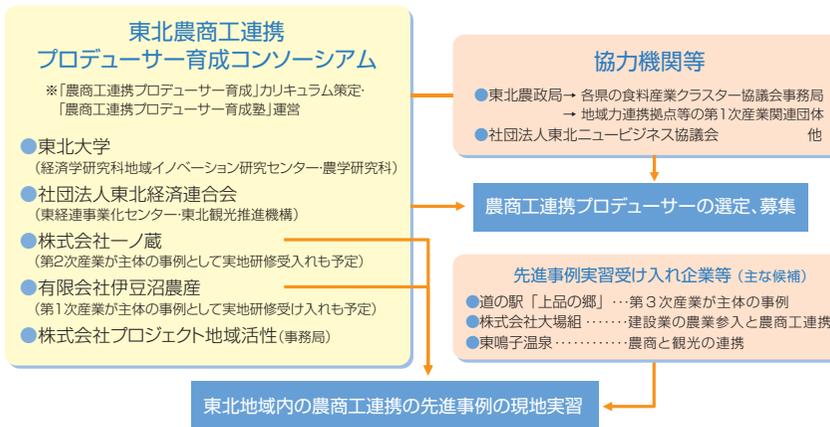
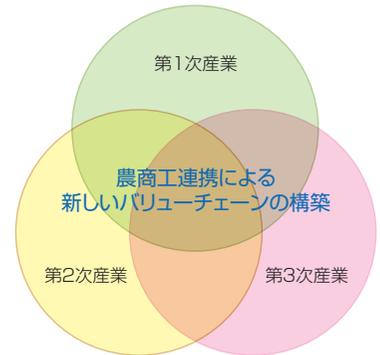
とうほく学生フォーラム 2008  
パネル展示と交流会の様子

# 特別プログラム 農商工連携プロデューサー育成事業

## 概要

本事業は、農商工連携によって新しいビジネス・モデルや新しい商品・サービスの創出をリードする経営人財（＝農商工連携プロデューサー）の育成を目的とするものです。2008年10月に「東北農商工連携プロデューサー育成コンソーシアム」を立ち上げ、人材育成のための教育プログラムの開発および調査研究を行っています。コンソーシアムは、地域イノベーション研究センター、社団法人東北経済連合会、株式会社一ノ蔵、有限会社伊豆沼農産および株式会社プロジェクト地域活性の5団体で組織され、東北農政局など多くの関連機関のご協力を得ながら活動しています。

2008年度には連携プロデューサー育成のための教材の開発、農商工連携事例の作成などを行い、2009年度からは次世代の農商工連携プロデューサー育成のための教育プログラムとして「農商工連携プロデューサー育成塾」を開設するとともに、農商工連携フォーラムを運営していきます。



大滝清一 教授  
コンソーシアム事業  
運営委員会委員長

## 第1回 農商工連携をリードする経営人財育成セミナー

地域企業・事業者が飛躍するために経営者は何をすべきか

主催：地域イノベーション研究センター、(社)東北経済連合会  
2009.1 せんだいメディアテーク

農商工連携をうまく実現してビジネスとして継続している、株式会社一ノ蔵、有限会社伊豆沼農産、e-アグリ株式会社の取り組み事例を紹介するとともに、ビジネスとしての農商工連携の有用性と課題および農商工連携プロデューサーに求められる要件などについて理解を深めました。



## 第2回 農商工連携をリードする経営人財育成セミナー

自社と地域の利益モデルを構築する経営者をいかに育成するか

主催：東北農商工連携プロデューサー育成コンソーシアム  
2009.3 せんだいメディアテーク

第1回セミナーでの議論を踏まえ、農商工連携の中核となる経営人財に求められる役割を明らかにするとともに、2009年度から実施される「農商工連携プロデューサー育成塾」の教育カリキュラムおよび農商工連携フォーラムなどの取り組みについて紹介しました。



# 特別プログラム 寄附講座・受託研究等の支援

## 中小企業政策（中小機構）寄附講座

経済学研究科は、2006年9月に（独）中小企業基盤整備機構から寄附講座を受け入れ、2年間にわたって中小企業政策に関する教育研究を行いました。センターは、中小企業政策に関する調査研究を行うとともに、シンポジウムおよびセミナーを開催しました。



大野雄三客員教授による中小企業経営者論の授業

## 中小企業政策（中小機構）寄附講座の主要な成果

### 大学院特別講義の開講

経済学研究科の科目として「中小企業経営者論」および「中小企業政策」を開講しました。特に「中小企業経営者論」については、大学院生のほか、地域中小企業の経営管理者にも聴講を呼びかけ、計27名の経営管理者が講義を聴講しました。

### 中小企業政策に関する調査研究

地域中小企業活性化政策として新連携をとりあげ、政策の有効性と浸透度を向上させることを目的として調査研究を行いました。アンケート調査およびヒアリング調査を通じて、東北地域で実施されている新連携事業についてその現状および課題を把握しました。

### シンポジウムの開催

- 東北地域の経済産業の問題点を探る 2007.9
- 地域ブランドの作り方 2008.3
- ものづくりだけで生き残れるか：製造業のサービス化 2008.10

### 中小企業政策特別セミナーの開催

韓国の中小企業政策専門家を招聘して「大学発ベンチャー：韓・日比較研究」をテーマに特別セミナーを開催しました。

### 経済学研究科における研究プロジェクト実施

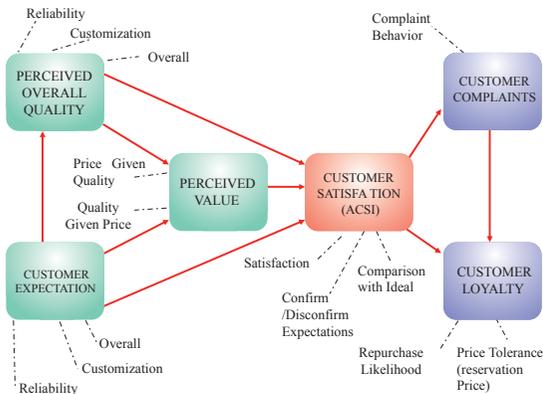
中小企業政策、中小企業の留学生雇用、中小企業との連携による東北大学ブランド商品の開発など、プロジェクトを実施しました。

## 産学連携による実践型人材育成事業

※旧サービス・イノベーション人材育成推進プログラム

経済学研究科は、2007年10月から文部科学省の委託事業として「サービス・イノベーション人材育成推進プログラム」を実施しています。日本のGDPの70%がサービス産業から生み出されるなど、近年、先進国ではサービス産業の重要性が高まっています。しかし、日本のサービス産業の生産性は米国に比べて低い水準に留まっています。本プログラムはサービス部門において新たな生産性を創造し、サービスの質をマネジメントできる人材を育てるための教育を実施し、研究者交流のための国際コンファレンスなどを開催しています。センターは地域企業との連携やシンポジウムの共催などを通じて、本プログラムの実施を支援しています。

### ACSI Model



※ ACSI: American Customer Satisfaction Index

## 産学連携による実践型人材育成事業の主要な活動

- 2007.10 キック・オフ・セミナーの開催
- 2007.12 テクニカル・セミナーの開催  
楽天野球団が考えたこと  
島田亨氏（株式会社楽天野球団）
- 2008.1 テクニカル・セミナーの開催  
サービスマネジメント：イントロダクション & リサーチテーマ  
藤川佳則氏（一橋大学）
- 2008.3 携帯電話を使った県内観光地での顧客満足度調査の実施
- 2008.3 International Conference on Innovation and Productivity Improvement in Service Industries
- 2008.6 産学連携人材育成事業6大学交流会の開催
- 2008.7 テクニカル・セミナーの開催  
缶チューハイ・缶カクテル市場のマーケティング：サントリーの事例  
馬場直也氏（サントリー株式会社）
- 2008.12 The 2nd International Conference on Innovation and Customer Satisfaction in Service Industries
- 2009.1 テクニカル・セミナーの開催  
テレビのうらがわ  
渡辺一生氏（株式会社東日本放送）

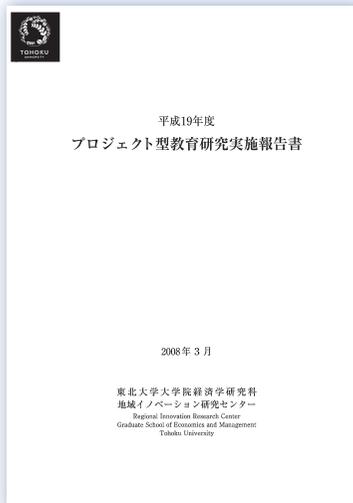
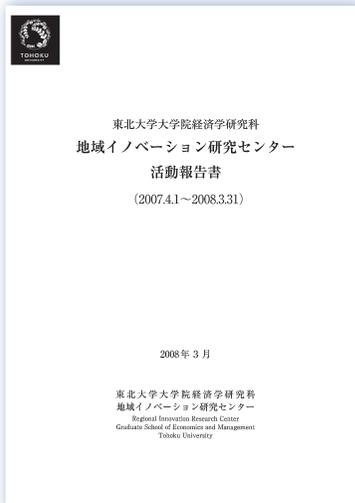
## 地域経済金融論（七十七銀行）寄附講座

経済学研究科は、2008年4月から（株）七十七銀行から地域経済金融論の寄附講座を受け入れ、日本における首都圏、東北地域における仙台圏への経済活動の集中化および経済・金融取引のボーダレス化などの状況を分析するとともに、それらを踏まえた地域金融機関の役割について教育研究を行い、研究報告会を開催します。大学院の講義科目として「地域経済論」と「地域金融論」を開講します。

# 情報交流プログラム

## ホームページによる交流

センターのホームページを通じて、センターの概要、事業内容、インターンシップ案内などの情報を提供するとともに、センター活動に関するニュース、各種募集の案内などを行います。また、センターのパンフレットや各年度のセンター活動報告書などの資料をダウンロードすることができます。



### コラム「私の1冊」

情報交流事業の一環として『コラム「私の1冊」』を提供しています。このコラムでは、経済学研究科の研究者等が、自身の研究成果（著書・論文）や、座右の書または強く感銘を受けた本などを紹介します。コラムを通して、皆様が大学の知や経済学・経営学に対する幅広い興味関心をもち、今後の指針となりイノベーションを生み出すきっかけになることを期待しています。

## 広報イベントへの出展

センターは本学および地域社会で開催される各種イベントに積極的に出展し、センターの目的と事業活動を広く知らせることによって、地域社会とのネットワーク形成と連携活動の拡大に努めています。

### 「東北大学イノベーションフェア 2007 in 仙台」に出展

2007年10月に開催された本学のイノベーションフェアに出展し、イノベーション活動の関係者および一般市民にセンターの事業活動を紹介しました。

### 本学 100 周年記念まつりに出展

本学 100 周年記念まつり期間中に、センターの目的と事業活動を紹介するパネル展示を行うとともに、「一文字で表現する東北大学への期待」というイベントを開催し、多くの同窓生、一般市民の方から本学の将来に向けての期待と声援を集めるなど、交流を行いました。

### 本学 Annual Review 2008 に紹介記事掲載

「東北大学 Annual Review 2008」に、教員・大学院生・地域の実務家が共同で地域の重要課題の解決に取り組む「プロジェクト型教育研究プログラム」によるセンターの社会貢献活動が掲載されました。

## 連携事業・委託事業・寄附金等の受入

センターは、地域イノベーション能力の向上というセンターの設立目的に合致するような連携事業、委託事業、寄附金等の受入に関する相談を受け付けます。相談をご希望の方は、センターまでお問い合わせください。



# センター略史

2005.7	地域イノベーション研究センター（RIRC）設立	2007.5	第10回、11回イブニング・トークの開催
7	ベンチャー創業セミナーの開催	6	第12回イブニング・トークの開催
9	第1回宮城県中小企業家同友会アンケート調査	7	第5回宮城県中小企業家同友会アンケート調査
9	設立記念国際シンポジウム「東北アジアの産業クラスター」の開催	8-10	第4期プロジェクト型長期インターンシップの実施
10	創業支援セミナーの開催	8	東北大学100周年記念まつりへの出展
11-12	第1期起業家育成（インターンシップ）プログラムの実施	9	みやぎ県民大学開放講座の開催
11	『東北21』（東北経済産業局）への記事掲載	9	第2回RIRCシンポジウムの開催
11	第1回イブニング・トークの開催	9	「東北地域の経済産業の問題点を探る」
12	第2回イブニング・トークの開催	10	東北大学イノベーションフェア2007 in 仙台への出展
2006.1	第3回イブニング・トークの開催	10	第13回イブニング・トークの開催
2	フォーラム「どうなる介護保険？」「どうする市町村・介護保険事業所の経営！」の開催	11	第14回イブニング・トークの開催
3	第2回宮城県中小企業家同友会アンケート調査	11	講演会「働き甲斐のある会社NO.1の社長が語る『人と組織』」を東北大学経済学会と共催
3	第1回RIRCフォーラム「若者に選ばれる地域企業の条件」の開催	12	第15回イブニング・トークの開催
2006.4	プロジェクト型長期インターンシップの単位履修化	2008.1	『IKUEI NEWS』（(財)電通育英会）への記事掲載
4	自主持ち込み型インターンシップの開始	1	第6回宮城県中小企業家同友会アンケート調査
4	ベンチャー EXPO2006 の開催	1	「新連携」セミナーの開催
5	第4回イブニング・トークの開催	2	センター内規の制定および運営組織の整備
6	第5回イブニング・トークの開催	3	第3回RIRCシンポジウム「地域ブランドの作り方」の開催
6-8	第2期プロジェクト型長期インターンシップの実施	2008.5	第1回プロデューサー塾の開催
6	第6回イブニング・トークの開催	5	とうほく学生フォーラム2008 ～地域を変える若者の力～の開催
7	第3回宮城県中小企業家同友会アンケート調査	6	第2回プロデューサー塾の開催
9	みやぎ県民大学開放講座の開催	7	第3回プロデューサー塾の開催
9	中小企業政策（中小機構）寄附講座の設置	7	中小企業政策特別セミナー「大学発ベンチャー：韓・日比較研究」の開催
10-12	第3期プロジェクト型長期インターンシップの実施	7	第7回宮城県中小企業家同友会アンケート調査
11	第2回RIRCフォーラム「中小企業のイノベーションを起こす情報化への新たな挑戦」の開催	8-10	第5期プロジェクト型長期インターンシップの実施
11	第7回イブニング・トークの開催	9	イノベーション・カレッジ2008の開催
11	第8回イブニング・トークの開催	10	地域イノベーション・シンポジウム「ものづくりだけで生き残れるか？～製造業のサービス化」の開催
2007.1	第4回宮城県中小企業家同友会アンケート調査	10	公開講座「東北地域の中小企業経営と地域活性化」の開講
1	新春（第9回）イブニング・トークの開催	10	第4回プロデューサー塾の開催
2	『産学官連携ジャーナル』（JST）への記事掲載	10	特別セミナー「地域革新システム構築のための産学協力活性化方案」の開催
		10	東北農商工連携プロデューサー育成コンソーシアムへの参加
		11	第5回プロデューサー塾の開催
		2009.1	第6回プロデューサー塾の開催
		1	第8回宮城県中小企業家同友会アンケート調査
		1	第1回「農商工連携をリードする経営人財育成セミナー」の開催
		3	第2回「農商工連携をリードする経営人財育成セミナー」の開催
		3	経和会会報に地域イノベーション研究センター特集を掲載

## 交通アクセス

### ▶周辺図



### ▶構内図



JR仙台駅より仙台市営バスにて「東北大川内キャンパス」下車(20分)  
仙台駅西口バス乗り場9番「青葉通・工学部経由動物公園循環」、  
「宮教大」、「成田山」、「青葉台」行きの各バス利用  
JR仙台駅西口よりタクシーご利用の場合は約15分

### 連絡先

〒980-8576 仙台市青葉区川内 27-1  
東北大学大学院経済学研究科  
地域イノベーション研究センター  
電話・FAX 022-795-3108  
E-mail rirc@econ.tohoku.ac.jp  
internship@econ.tohoku.ac.jp(インターンシップ専用)  
Homepage <http://www.econ.tohoku.ac.jp/rirc/>

**Regional Innovation Research Center  
Graduate School of Economics and Management  
Tohoku University**

Kawauchi 27-1, Aoba-ku, Sendai